



東京都立国際高等学校の校舎



3年生の生徒たち(2022年2月)



ベトナム国家大学付属ホーチミン高校とのオンライン交流会の様子



教室から見た校庭の様子

東京都立国際高等学校

家庭科 主幹教諭 岩澤未奈



グローバル視点の教育

東京都立国際高等学校は、東京都で最初の国際学科高校として平成元年に創設されました。海外帰国生徒や外国人の生徒たちが全校生徒の約3割を占め、多様性が本校の特徴の一つです。個性的で積極的な生徒が多く、異なった体験をしてきた生徒同士の交流を通して、学校生活のあらゆる機会に国際理解が深まります。生徒たちは普通教科に加え、高度な外国語能力を育成する語学系科目や、異文化理解、国際関係などのグローバルな視点に立った専門科目を学んでいます。

本校は平成27年に国際バカロレア（IB）機構からティプロマ・プログラム（DIP）（注1）を実施する学校として認定されたほか、東京都教育委員会から進学指導特別推進校の指定を受け、国内外の大学への進学指導、海外の高校との連携、学校行事など多様な国際理解教育を推進しています。

家庭科教師としての心がけ

卒業後、グローバルな社会で活躍するためには、様々な教科で学んだことを統合して、自分で思考し判断する教科の壁を越えた広い視野が必要です。生徒が家庭科以外の教科で学んだことを応用して書いたレポートや論文から、他教科で何

を学んでいるのか、家庭科の授業で生かせることはないかなど情報収集を心がけています。

従来の家庭科の取組み

家庭経済の単元では、普段の買い物ものを振り返ったり、将来必要なお金を計算させたりして、身近なことからお金について意識させます。そして、収入を得る方法や、エシカル消費（注2）とSDGs、人生における様々なリスクに備える方法、キャッシュレス決済や金利、消費者問題などに発展させます。そのうえで、金融広報中央委員会が発刊する「これであなともひとり立ち」など実践的なワークを通じて、適切な意思決定のために必要な知識や判断力を養い、行動できるような生徒を育成するという目標で授業を展開しています。

家庭科と公民科の「リポ授業を

ある生徒が、公民科の授業の中で家庭科で学んだことを踏まえて自分なりに考えた意見を、レポートに記述したことがありました。それを聞いたとき、公民科の担当教員と「家庭科の授業で取り上げているトピック（消費者教育や環境、労働問題など）は、公民科と関連が深い」ということに気づきました。

家庭科はよりよい人生を設計し、生活

者としての自立をめざす教科ですが、社会の一員として役割を果たすという視点も育てなければ、様々な人と共生する豊かな社会は形成できません。一方、公民科では社会の仕組みや概念を学び、社会問題の解決を図り社会全体をよりよくする力を養います。ならば、一緒に授業をしてみよう、公民科と家庭科のコラボ授業に取り組みました。

「コラボ授業に向けて」

コラボ授業では、時間も限られているため、それぞれの教科が指導する内容を絞ること、役割分担を決めておくことが大事です。公民科の教員には、「社会保障や企業活動を支える投資の社会的な役割」と「ESG投資（注3）を通じて社会貢献できる」の2点を教えてもらうようにしました。これにより、従来の家庭科の学びをさらに深め、「生涯を見通し



コラボ授業の様子(家庭科)



コラボ授業の様子(公民科)



コラボ授業の様子(グループワーク)

た生活を設計し、金融商品の活用について正しい知識を備え、資産形成に向けて主体的に判断し、行動する力を身に付けること」をねらいとしました。新学習指導要領では、家庭科は「金融商品の特徴」「資産形成」を取り上げることが示されたため、それを見据えつつ、現行のカリキュラムに合わせ、「家計と投資」をテーマにコラボ授業を実施することにしました。教員同士のスケジュールを合わせるのが一番の課題でしたが、それぞれの専門性を生かして、少ない授業時間を効率よく活用することができ、基礎的な学習の後、発展応用するためにも有効な授業法です。

「コラボ授業の実践」

コラボ授業の導入は家庭科が担当しました。収入と支出のバランスを保ち家計管理することが基本であることを確認し、

「収入V支出」の状態であればお金が貯まることに気づかせます。しかし、利息がほとんど付かない普通預金では、インフレになれば貨幣の価値が下がり「貯金が減っているのと同じことになる」と問題提起をして公民科に交代します。

引き継いだ公民科では「今100万円あったらどう使うか」をテーマにグループで話し合わせ、貯蓄の目的や投資とはどのようなものか、リスクとリターンの関係などを説明します。最初は「とりあえず貯蓄」「使い道がない」と言っていた生徒も、「株って何が危険なの?」「純金はどうして価値があるの?」と活発に発言するようになります。グループ活動では教師が2人いることでフォローがしやすい、質問には家庭科、公民科それぞれの立場で答えることができます。各グループが発表した後、ESG投資についての解説をして公民科の担当は終了です。

再び家庭科から「投資は当面使う予定のないお金で」「分散、長期、積立ではリスクの軽減」、「ESG投資はエンシカルな選択でもある」などリスク軽減のポイントや投資先の選び方を確認しつつ、「しかし、必ず儲かる話はない」と詐欺や悪質商法への注意を促してまとめます。

「コラボ授業の効果と今後の展望」

「社会を良くする」という公民科の視点

から家計を考えさせることで、資産形成の方法が一つではないこと、いろいろな情報を統合し多角的に検討したうえで主体的な意思決定が大切なこと、消費者の責任を自覚し社会全体への影響を考えて行動することなど、「資産形成」をより深く考えさせ金融リテラシーを高めることができました。

最初は貯蓄しか選択肢のなかった生徒も「自分のお金が社会に役立つならESG投資をやってみよう」、「リスクを軽減する方法を取り入れて備えたい」など、コラボ授業前にはなかった新しい意見を引き出すことができました。

新学習指導要領では教科横断的な学習の充実への取り組みも示されています。家庭科は他教科と結びつくことで、生徒が社会問題をより身近なものとして解決に取り組むきっかけとなります。持続可能な社会の実現に役立ち、生徒個人の未来をより豊かにするものとして信じてこれからも様々な手法で金融経済教育を実践していきたいと考えています。

(注1) 16歳から19歳が対象、所定のカリキュラムを2年間履修、最終試験を経て一定以上の成績を収めると国際的に認められる大学入学資格(国際バカロレア)が取得可能なプログラム
(注2) 人や社会、生物多様性、地球環境、地域などに配慮した消費行動。主に持続可能な開発目標(SDGs)の目標12「つくる責任、つかう責任」につながる、貧困、飢餓、気候変動、海・陸の豊かさ、など多くの目標の達成に貢献する
(注3) 環境、社会、企業統治を意識した投資